

公益財団法人島根県西部山村振興財団  
平成28年度事業報告

## 運営方針

当財団の公益目的事業は、地域資源活用推進事業であり、これは地域資源に再注目し、これを活用した第二次産業・第三次産業を育てることにより、山村の振興を図るものです。特に当該地域の重要な資源である山林については、県産材の需要拡大が求められており、また適切な間伐が自然災害の被害低減につながるという観点から、間伐材を含めた地元材の活用推進に特に注力するものです。

### I 公益目的事業

#### 1 地域資源活用推進事業

##### (1) 地域材製品等開発支援事業

〈地域材製品の開発支援／地域材製品の企画試作／オープンラボ(工場開放)〉

当該地域において確保・保持が難しい試験研究や技術開発の体制・ノウハウについて、当財団職員及び当財団がコーディネートする人材により補完する取り組みを行いました。木材加工業者、製材業者等からの相談に応じ、及び自主開発を進め、地域材製品を企画し試作し、県産材製品開発を総合的に支援しました。

今年度は以下の事項を重点的に実施しました。

##### ① 浜田の広葉樹活用プロジェクト

平成27年度後半から実施している取組を加速化させ、地域林業のサプライチェーンを構築するため、構想に参画する関係者間の連携の下、体制づくりを進めました。

本年度は木材生産を担当する事業所が県境の八幡原の山林に新たな中間土場を設置し、地域内で増産される原木集荷を担うとともに、製材事業者らに対する納材の窓口となって、原木安定供給体制を整備しました。

製材事業者と当所が製材・乾燥など原木の材料化を図り、さらに当所の地域おこし協力隊員等によって最終製品を製作しました。

また、広葉樹の管理方法確立のために、乾燥技術を担う人材を育成しました。その他木工加工においてなど、材料化・製品化の各面で連携先であるオークヴィレッジ社の指導を受け、技術移転を図りました。

## 背景と目的

島根県の天然林率は6割に達し、利用可能に達した森林蓄積の割合は9割以上で、多種多様な木々を育成し活用できる環境にあります。特に県西部の浜田地域は、それらの多種多様な木の蓄積が高く、また近隣にバイオマス発電、製紙、合板製造などの事業体があり、いわゆるB材以下は「適材適所」に活用されていることから、最も付加価値の高いと思われるA材の活用が望まれています。

しかし、効率良く製材でき、規格化しやすい針葉樹に比べ、広葉樹は径が揃いにくく、大きく湾曲した歪な形、複雑な樹形であるなどの理由から、活用範囲が狭いとされてき

ました。

家具等へ活用できる有用材であっても、樹種や形状にかかわらず材料としては付加価値の低い形で処理される現状にあります。

また、多種多様な材を木材化するために不可欠な乾燥技術についても知見、経験とも十分ではなく、高価格の製品を的確に PR 販売するノウハウも持っていません。

そこで、このプロジェクトでは広葉樹の有用材を活用することを目的に、木材生産者と木材製品生産者が連携し、伐採から最終製品の販売までの包括的なプロデュースを経験値の高い企業に委託し、さらに中山間地域研究センター木材利用科の支援なども得て、最終製品の開発から販売までを手がけることにより、そのノウハウを地域として蓄積し、今後さらに他地域へ普及展開させていくものです。

## 実施体制

以下の地域事業体による連携協定を平成28年4月に締結し、体制を整備しました。

森林経営計画策定：三浦兼浩

木材生産：(有)宇川木材工芸店

製材：(有)山本製材所、(有)西田製材、(株)浦田木材

乾燥・製品加工：(公財)島根県西部山村振興財団

総合コンサルティング：オークヴィレッジ(株)、協力：(株)たくみ塾

浜田市、オークヴィレッジ社と当財団による連携協定を平成28年7月に締結し、技術移転、人材育成や販路構築を実施しました。

### ・オークヴィレッジ株式会社

1974年岐阜県高山市にナラ材を主体とした受注生産の家具工房としてスタート。広葉樹の木工技術を継承して樹種や木材の特性を生かす家具や文具、玩具、テーブルウェアなど木製小物まで大小様々な生活全般にかかわる製品を一貫生産している。小売店やエンドユーザーと直接取引するビジネスモデルを確立していることを生かして販売チャンネルも担う。高山市に本社、ショールームなど。東京自由が丘と大阪阪急百貨店に直営店。

### ・森林たくみ塾/株式会社たくみ塾 オークヴィレッジグループ会社

1991年にオークヴィレッジのモノづくりの理念を受け継ぎ、木の総合教育機関として開塾。徹底した現場での実践教育が特徴。

## ②自主開発

広葉樹活用プロジェクトの応用の成果として、店舗サインの製品化を図りました(浜田市依託)。また、27年度から導入した高温乾燥機に関連して、実践的な乾燥技術の蓄積を進

め、利用規約の整備など、賃乾燥の受託体制を整えました。

### ③旭町更正施設における刑務作業

受刑者に技術指導すると共に、刑務作業を活用して木製品の一部加工を行いました。

## (2)地域製品の普及促進事業

〈地域製品のPR支援／販路拡大のための情報収集提供〉

当該地域は比較的小規模な製造業者が多く、製品のPRを行う機会を設けにくいのが実情です。一方、製品の普及においては地域にとどまらない広域の市場を対象としたPR・販路開拓を継続することが必要でありこの機会の提供及び相談支援を行いました。地域の農林水産加工品のPR展示を行いました。

当財団では平成25年から西部地域の地域製品の展示販売会を松江市で開催しています。今年度も10月末から約1カ月間、地域性の高い産品をPRしました。

## 2. 地域づくり事業

地域内外の住民に対し、森林資源をはじめとした当該地域の特性に触れる機会を設けるほか、地域づくり支援を行う機関に対する助成、表彰を行うことなどにより山村の振興を図るものです。

① 森林保全学習体験事業では、地域イベントにおいて木工体験を適宜実施しました。

②地域づくり等協力事業では、地域の活性化に資することが認められる活動を支援するために、自ら主体となって積極的に行事等の活動を実施する団体・グループの経費の一部を助成しました。

③施設管理事業では、他地域住民の当該地域に対する関心や来訪の機会を増大するため、他地域からの集客拠点のひとつである公的施設「浜田市フットサルやさか競技場」の受付業務を浜田市からの委託を受けて行いました。

## 収益目的事業

(1) 県産材木製品受注事業 〈木製品の受注製作販売〉

(2) 土地建物賃貸事業 〈金城町財団所有地の賃貸〉

収益確保を目的とし、木製品の製作・販売及び不動産賃貸等を行う事業。

- ・公共事業の縮小傾向と、公益事業への傾注による影響を受けて、事業量の減少傾向が続いています。今後、広葉樹製品の製作販売体制をできるだけ早く整え、収益確保を目指したいと考えます。

### Ⅲ 財団の運営

財団の業務執行に関する意思決定を行い、業務を公正に執行するため、必要に応じて理事会・評議員会を開催し、適正な財団運営に努めました。

#### ①理事会

平成28年6月3日 臨時理事会(書面決議/事業報告・収支決算他)

平成28年6月27日 定時理事会(事業報告・収支決算他)

平成29年1月27日 臨時理事会(書面決議/浜田の広葉樹活用プロジェクト  
加速化)

平成29年3月27日 定時理事会(事業計画・収支予算他)

#### ②評議員会

平成28年6月13日 臨時評議員会(書面決議/定款変更承認)

平成28年6月27日 定時評議員会(事業報告・収支決算承認)

#### ③監査

平成28年5月24日 27年度における会計及び業務監査

#### その他の主な行事

平成28年7月21日 浜田の広葉樹活用プロジェクト連携協定調印

平成28年10月10日 職域フットサル大会

平成28年10月16日 小学生フットサル大会

平成28年10月28日 森トピア松江開催～11月末